

GRANDCUBE

Osaka International Convention Center

PRESS

Vol.28 2019 Autumn



のそばに、いつも。
SPECIAL INTERVIEW

[株式会社JTB 代表取締役 社長執行役員 高橋 広行]

感動のそばに、いつも。
お客様の感動・共感を呼び起こす

The Document GrandCube

スーパーシティ
スマートシティフォーラム2019

中之島ビジネスフロントライン

株式会社ロイヤルホテル



SPECIAL INTERVIEW

旅行業から交流創造事業へ—— 「第三の創業」という英断

株式会社JTB 代表取締役 社長執行役員

高橋 広行 | HIROYUKI TAKAHASHI

大阪府立国際会議場(以下大阪国際会議場)と協働し、MICE事業にも力を注がれている、旅行業界最大手の株式会社JTB様。OTA*の台頭、インバウンドの急増など、旅行業界が激変している中、同社は「第三の創業」を掲げ、新しい事業分野を開拓されています。その先に見るJTB様の姿とは。そして、観光先進国・日本を実現するための課題と解決策とは。事業改革の陣頭指揮を執る高橋広行代表取締役社長執行役員にお話を伺いました。

MICEをグローバルベースで誘致。 交流創造事業で「第三の創業」を完遂させる。

組織を統合し、 事業ドメインを変更

——本日は、弊社広報誌にご協力いただき、ありがとうございます。2014年、社長に就任されて以来、さまざまな改革を進められ、2018年には「第三の創業」を掲げられていますが、その背景をお教いいただけますか？

「第一の創業」は今から107年前の1912年、「ジャパン・ツーリスト・ピューロー」としての創業を指します。この会社は、外国人を日本に誘致し外貨を獲得したり、日本の事情を世界にアピールする目的で作られた会社で、当時は主に乗物の切符等を中心に販売していました。

「第二の創業」は、日本人が海外旅行に出かけるようになった高度成長期です。この時期、弊社をはじめ、日本の旅行会社は国内外のパッケージ旅行を企画して大量に販売するようになり、旅行業界は大きく成長しました。

今、我々は「第三の創業」を目指していますが、その背景には、旅行業界を取り巻く経営環境、特に競合の変化があります。これまで、国内の旅行会社を意識して競争してきましたが、これからのコンペティターはグローバル規模の企業です。今、インターネットを駆使した旅行会社が世界を席巻し始めています。また、民泊など、新たなビジネスモデルを持ったコンペティターが世界から日本に押し寄せています。まさに黒船来航の状況なのです。そうした環境の変化に適応し、生き残るために「第三の創業」に着手しました。

——「第三の創業」を掲げて、どのような改革を進めておられるのですか？

まず、巨大なグローバルコンペティターと戦うために2018年、組織を統合しました。これまでJTBは、国内各地域毎に分社化していましたが、経営資源の集中と意思決定のスピード化を目指して統合し、“ワンJTB”としてスタートしました。また、事業ドメインを「交流創造事業」に大きく変更しました。もちろん、JTBにとって旅行は1丁目1番地の事業ですから、今後も扱いますが、単なる旅行業から脱皮することにしたのです。

「交流創造事業」の趣旨は、商品やサービス、情報、仕組みといったJTBならではのソリューションの提供により、人やもの、情報の交流を生み出し、お客様や地域・国が抱える課題解決に貢献すること。それと同時に、我々のビジネスも成長する、という両輪を目指すものです。

旅行だけを扱っていては不毛な価格競争を続けるだけですし、人口減少で日本のマーケットの縮小は必至です。一方、ソリューションとなると、個人・法人のお客様から地域、国が抱える課題は千差万別で、無限にあるといつても過言ではありません。その事業分野に乗り出すことは、旅行業というレッドオーシャンから、ソリューションというブルー・オーシャンへ舵を切るということです。

「交流創造事業」を具現化したひとつが、MICEだと思います。これまで我々は、MICEについては川下の旅行部分にだけ関わっていましたが、今後は自らMICEをグローバルベースで誘致し、企画・運営からあっせんまで、一気通貫の価値提供ができる能力を身につけたいと考えています。現在弊社は、年間約1万6000件のMICEを取り扱っており、弊社主催展示会の実施もあります。大阪でも大規模な展示会や会議を扱え

れば、と考えています。こうした「第三の創業」を、2022年までに形にしたいと思います。

——ソリューションの提供について、もう少し具体的にお聞かせください。

今年4月、京都の主要観光地を走る観光客専用の2階建てHop-On Hop-Off Bus「スカイホップバス京都」を導入しました。今、日本はインバウンド需要が高まる一方で、それによるさまざまな問題が発生しています。特に京都では、インバウンドを含む多くの観光客が市バスを利用するため、通勤通学の足が奪われるという問題がありました。弊社はその解決に向けて、日本では東京に次いで2番目にこのバスを導入したのです。これによって、市民の生活の足と観光の足が分離され、乗客のストレスも緩和されると期待しています。

また、パナソニック株式会社とヤマトホールディングス株式会社と提携して、インバウンドの方々が手ぶらで観光できる「LUGGAGE-FREE-TRAVEL」というサービスをスタートさせました。空港到着後、荷物を預けたら、その日は手ぶらで観光でき、ホテルに着くと荷物が届いている、というシステムです。大阪から富士山を見て東京へ、というコースも手ぶらで楽しめます。手ぶらになれば行動範囲が広がりますし、人が動けば経済効果も高まります。これもひとつのソリューションビジネスだと思います。

また、キャッシュレス決済の環境整備も重要だと考えています。我々は決済サービスには関わりませんが、別のサービスと組み合わせた「観光型MaaS*」の提供を検討しています。移動は観光に欠かせない要素ですし、国が目指す2030年インバウンド6千万人を実現するには、地方分散は不可欠です。しかし、キャッシュレス決済だけでは、インバウンドの方々を地方に分散することは難しい。決済環境をはじめ、宿泊、食事、ショッピング、アクティビティ、二次交通、通信、観光情報などを、別々のサービス・アプリでなくトータルで提供できる仕組みを日本全国で作り上げていく必要があります。そうした一気通貫の仕組みを「観光型MaaS」と呼び、弊社では日本マイクロソフト株式会社と株式会社ナビタイムジャパンの技術を借りて「JAPAN Trip Navigator」というインバウンド向けの観光支援アプリケーションを作りました。これも「交流創造事業」のひとつですが、こうした仕組み作りが、ツーリズム産業の発展につながると考えています。

MICEや新スポーツビジネスに 可能性を見出す

——御社は2019年を「グローバルMICEの年」とされていますが、半年を過ぎた今、どのように感じいらっしゃいますか？

2019年度は既に、「G20大阪サミット」に関わり、大きな成果を得ることができました。大阪もグローバル規模のMICEの開催能力があることを実証でき、今後、グローバルMICEを誘致する大きな力になったのではないかでしょうか。8月28~30日に横浜で開催される「第7回アフリカ開発会議(TICAD)」では、弊社は宿泊や輸送、会議運営などを扱います。また、9月からは「ラグビーワールドカップ2019日本大会(ラグビーW杯)」が始まり、さらに10月22日には、即位礼正殿の儀も国事

MICEシティの大坂に期待。 イン&アウトの2WAYツーリズムを。

行為として行われます。まさに2019年は、全世界の目が日本に向かわれるグローバルMICEの年。これらを成功に導くことが、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」につながると考えています。

我々がグローバルMICEに力を入れているのは、大きな経済効果が日本にもたらされるからです。宿泊から会議、アフターコンベンション、エクスカーションを伴うMICEは、一般の観光客とは消費額のけたが違いますから、国、地域、そして我々にとっても収益面でプラスになります。日本型IRの整備促進に向けた動向にも期待しています。IRと地域の連携がなされれば、周遊観光も拡大し、IR以外の日本の魅力に触れることでリピーター化にも繋がります。

——スポーツイベントには、どのように関わっていかれますか？

欧米で長い歴史を持つ、スポーツビジネスモデル「ホスピタリティー・プログラム」を導入します。これは、観戦チケットと良質な飲食、ギフト等がパッケージになっており、試合観戦前に専用スペースで飲食と交流を楽しみ、試合観戦後は再び、飲食しながらスポーツの余韻に浸るという、ハイクラスなスポーツ観戦プログラムです。弊社は、このサービスの提供を実現するために、ホスピタリティー・プロバイダーとしてノウハウを持つ英国の専門会社と、合弁会社「STH Japan株式会社」を設立し、本格的にスポーツビジネスに乗り出しました。このプログラムをラグビーW杯で初めて日本に導入し、東京2020オリンピック競技大会でも提供したいと考えています。

これが実現すれば、今までチケット収入だけだったスポーツマーケットの消費額はガラリと変わるでしょう。欧米では、世界の名だたる企業が顧客のおもてなしに活用しています。お酒の席を設けるよりもお客様と長時間、楽しみながら交流できるというメリットがあるからです。例えば大きなゴルフ大会では、ゴルフ場の一角の仮設スペースで、飲食を楽しみながら観戦しています。そうしたサービスを日本で展開していきます。

大阪を魅力的な MICEシティにするために

——国内外のMICE施設および、大阪国際会議場の魅力と課題をどうお考えですか？

大阪のMICEマーケットへの取り組みは、大阪府市のトップセールスと産官学及びDMOである大阪観光局との連携の強さに特徴があると感じています。MICEの誘致に向けて、オール大阪で取り組まれています。その中で、大阪国際会議場はグローバルレベルでの質の高いサービスを提供し、しっかりと役割を果たされています。

一方で、大阪という地域としてのグローバルMICE誘致を考えた場合、ラスベガスやシンガポールのMICE施設と比べると、収容力に課題があります。世界標準は最低5000人。1万人規模の施設も珍しくありません。さらに、大規模な展示会場やイベントスペースが併設されていて、一体運営ができるのが世界のMICE施設の主流です。これが、MICE誘致の際には問われてきます。現在大阪府市で進めている統合型リゾート(IR)が実現されれば、大阪全体がより魅力的なMICEシティになります。そして何より重要なのは、これまで以上にオール大阪での戦略



的な誘致組織が有機的に機能することだと思います。

大阪国際会議場は、コンパクトながらも質が高く、何よりロケーションの強みを持っています。中之島は独特的な景観が美しい大阪市中央公会堂があり、また大阪中之島美術館が2021年に開業して美術館群と連携すれば、文化・芸術のネットワークが形成されロケーションの魅力は更に高まるでしょう。特に、関西を代表するリーガロイヤルホテルと直結という立地、アクセスの良さは大きな強みと言えます。大阪国際会議場は、IRとも連携し、こうしたならではの価値をPRするのが良いでしょう。JTBもその価値をうまくマーケットに伝えられるよう協力したいと思います。

——本年は「ツーリズムEXPOジャパン」初の大阪開催となります、期待されることとは何でしょうか？

「ツーリズムEXPOジャパン」は、世界最大級の旅の祭典、MICEイベントとしてこれまで東京で開催されてきましたが、今年、やっと大阪開催が決まりました。同イベントは、インバウンドだけでなくアウトバウンドも対象です。今の日本は、観光先進国を目指して積極的にインバウンドを呼び込んでいますが、私は観光の基本は、インバウンドとアウトバウンドのバランスが取れた「2WAYツーリズム」と考えています。そうでないと、必ず限界が来ることになります。

例えば、現在はインバウンド需要があるため、日本全国の空港には多くのLCC路線が乗り入れています。しかし、インバウンドの流れが止まると、LCCは撤退します。航空路線の安定維持のためにも、2WAYツーリズムが基本ですが、現状はインバウンド3千万人超に対して、アウトバウンドは2千万人未満。バランスが崩れしており、健全な形とは言えない状況です。

観光は2WAYツーリズムで成り立っています。ツーリズムEXPOでは、日本の魅力を発信すると同時に、海外の魅力も日本のお客様にご紹介するので、2WAYツーリズムを促進する絶好の機会になると期待しています。また、大阪と東京は、同じ日本でありながら文化も地域性も異なります。今回のツーリズムEXPOでは、毎年海外から来られる方々に、東京とは違う日本のよさを体験していただきたいと思っています。

(インタビュー日:2019年8月2日)

* OTA:Online Travel Agent。インターネット上だけで取引を行う旅行会社。

* MaaS:Mobility as a service。ICTを活用して交通をクラウド化し、マイカー以外のすべての交通手段による移動を一つのサービスとしてシームレスにつなぐ新たな移動の概念。

高橋 広行 *Hiroyuki Takahashi*

1979年、関西学院大学を卒業し、同年、株式会社日本交通公社に入社。株式会社ジェイティーピー西日本エース事業部長、株式会社JTB中国四国取締役広島支店長、株式会社ジェイティーピー常務取締役、株式会社JTB西日本代表取締役社長を経て、2014年、株式会社JTB代表取締役社長執行役員に就任。

The Document GrandCube

#03

Smart Cities Mission
An Overview

[G20大阪サミット2019 関連イベント] 6月29日(土)

スーパーシティスマートシティフォーラム2019

国内外の有識者が 「まるごと未来都市」を語る

6月29日(土)、「G20 大阪サミット 2019」の関連イベント「スーパーシティ スマートシティフォーラム 2019～スーパーシティに係る国内外の最新動向と今後の展望」が開催されました。当日は、28の企業・団体が先端技術・サービスを展示し、有識者の方々が最新技術による町づくりの実例や展望を発表。会場には75団体の自治体関係者をはじめ1,000名を超える方々が来場し、自治体関係者対象の相談コーナーには多くの相談が寄せられました。

スーパーシティ・スマートシティとは

2019年6月28日(金)から29日(土)の2日間にわたって大阪市内で開催された「G20 大阪サミット 2019」。世界中から注目されたこのビッグイベントに合わせて大阪府立国際会議場では、G20 貿易・デジタル経済大臣会合(閣僚声明 34)で了承されたスマートシティ関連の世界初の国際フォーラム「スーパーシティ スマートシティフォーラム 2019」が行われました。

スマートシティとは、IoT(Internet of Things:モノのインターネット)や環境技術

などの先端技術を用いて、町全体の基礎インフラや生活インフラ・サービスを効率的に管理・運営することで、人々の生活の質を高め、省資源化を実現する環境配慮型都市のこと。日本ではこれまで、交通インフラを最適化するサービスMaaS(Mobility as a Service:移動のサービス化)や遠隔教育の実証実験、ITによる防災などが部分的に進められてきました。スーパーシティは、そうした先進的サービスをひとつの町の暮らしに同時に実装する“スーパースマートな町=まるごと未来都市”的こと。今、その実現に向けたプロジェクトが、内閣府主導で進められています。

The Document GrandCube #03 G20 OSAKA SUMMIT Related Super City Smart City Forum 2019



先進技術を駆使したサービスやソリューションを紹介

現在、各企業はスーパーシティの実現を目指して、独自技術を生かしたサービスやソリューションを開発しています。3階イベントホールでは、28の企業・団体がブースを出展し、来場された方々に、近未来技術が導入されたスーパーシティのイメージを、映像などで紹介されていました。

コンピュータネットワーク機器開発会社のシスコシステムズは、ゴミから街灯、パーキングまで、町中のさまざまな情報を収集して活用するプラットフォームを展示。大阪大学は、健康医療分野での事業展開を検討している企業と協働で開発しているプラットフォームを紹介されました。また、東京大学と名古屋大学発のベンチャー企業ティアフォーは、完全自動運転EVのコンセプトカー「Milee(マイリー)」を展示。清水建設のブースでは、この車両を使ったスマート化や物流の自動化に向けて、東京の豊洲で実証実験をしていると説明されました。

満員御礼のテーマ別セッション

午後からは、3階イベントホールと10階会議室の5会場で、10のテーマ別セッションが行われました。「情報が拓く“いのち輝く未来

社会”の実現に向けて」をテーマとするセッションには、日本総合研究所プリンシバルの東博暢氏はじめ5名が登壇。G20大阪サミットから大阪・関西万博 2025へつなげる提言「いのち輝く未来社会のデザイン」という万博のテーマに沿って、住民起点でスーパーシティ／スマートシティについて議論を展開されました。大阪大学大学院医学系研究科の澤芳樹教授は、「都市型高齢化社会におけるメディカルスーパーシティ」構想案を提示。G20大阪サミットで重視されている“World Wide Data Governance”や“Data Free Flow with Trust”的観点から、医療情報を銀行に預ける“情報銀行”的考え方についても発表されました。

そのほかのセッションでは、フィンランド・ヘルシンキ市の最高デジタル責任者、Mikko Rusama氏がヘルシンキ市の取組を紹介。シスコシステムズの代表執行役員社長 Dave West氏をはじめ、アリババ社やC4 systems社といった、都市のデジタル基盤を支える“シティプラットフォーマー”は、世界のスマートシティの現状を語りました。世界経済フォーラム第四次産業革命センター・グローバルネットワーク長などを務める Murat Sönmez 氏は、第四次産業革命により加速する新たな町づくりの今後を展望。どのセッションも満席で、参加の方々の関心の高さがうかがえました。

片山さつき大臣らが基調講演に登壇

15時からは、3階イベントホールで全体セッションとして基調講演とパネルディスカッションが行われました。最初に、片山さつき内閣府特命担当大臣があいさつし、「デジタル化を原動力とするSociety5.0の実現は、より高度で便利な社会を体現するものであり、日本のスーパーシティ構想はその先駆け」と安倍晋三内閣総理大臣からのメッセージを読み上げられました。続いて「少子高齢化が進む地域に住んでいても、誰も取り残されることのないスーパーシティを、住民合意のもとつくっていく」と力強く述べられました。

海外来賓による基調講演では、米国、EU、中国、インドにおけるスマートシティの取組の現状や課題を、それぞれ第一線に立つ専門家らが発表。各国の取組の中から、都市間で共通する課題や国際的に取り組むべき課題を浮き彫りにしました。続いて、慶應義塾大学名誉教授・東洋大学教授の竹中平蔵氏をはじめとする国内有識者がスーパーシティ構想の概要と狙いを解説しました。その中で、「SDGs 全国フォーラム 2019」の主催者でもある黒岩祐治神奈川県知事は、スーパーシティの実現に不可欠な SDGs に、神奈川県がどのように取り組んできたのか、事例を紹介されました。

パネルディスカッションには、片山大臣を



はじめ、世界銀行グループシニアオペレーションオフィサーなどを務めるDaniel Levine氏、中国都市・小城鎮改革発展センターチーフエコノミストの李鉄氏、INIAD(東洋大学情報連携学部)学部長の坂村健氏といった、スマートシティ分野の第一線で活躍する国内外の専門家が登壇。「スーパーシティ／

スマートシティに必要なリーダーシップと合意形成」「スーパーシティ／スマートシティに係る国際的な協力の重要性」の2つのテーマについて議論されました。

遠隔医療や遠隔教育、キャッシュレス、MaaSなど、さまざまな先端サービスを同時に実装することで、私たちの暮らしはどう変わ

るのか、そしてそのための課題は何なのか。満席の会場では、英語、中国語、日本語の同時通訳のイヤホンをつけて、有識者の講演と熱い議論に熱心に耳を傾けられる来場者の姿が多く見られました。本フォーラムをきっかけに、多くの方々が未来都市実現への挑戦意欲をかきたてられたようです。

※肩書きは取材当時のものです。

G20サミットを機に日本の構想をアピール



内閣府 地方創生推進事務局 国家戦略特区担当
村上 敬亮 審議官

この6月、AIやビッグデータを活用した先進的な複数のサービスをひとつの町に実装するスーパーシティに関する法案を、国会に提出しました。これにより制度の仕組みが見えてきたので、自治体にとってもようやく何をすべきかが明確になると思います。本フォーラムは、そうした新たな展開があった後、最初に開かれた会議です。つまり、スーパーシティの全体像が、本フォーラムで明らかになったというわけです。

世界各地では既に、スマートシティづくりが進んでいます。日本の自治体の方々は、そうした事例に触れることも少ないかと思いますから、スマートシティづくりに関わった方々を海外からお招きしたこのフォーラムを、様々な情報を得る機会にしていただければと考えています。

そのような重要な会議の会場として大阪府立国際会議場を選んだのは、G20で大阪が注目される今、日本でもスマートシティ化が進んでいることをアピールしたいと思ったからです。また、大阪府立国際会議場は、大阪駅や新大阪駅からのアクセスがよく、1000人規模の会議ができることも、開催を即決した大きな理由です。フォーラムとレセプションがひとつの建物内で完結できるのもありがたいですね。厳重な警備体制の下、多くの方々が、別の会場に移動するのは大変ですから助かります。

IT企業が支える町づくり

世界では既に、スマートシティがつくられつつあります。人口約8万人の町である韓国のソンドの暮らしは、米国のIT企業のシステムが支えていますし、カナダのトロントでもIT企業が自ら約5000万ドルを投じてスマートシティづくりに取り組んでいます。また、スペインのバルセロナでも、遠隔診療や遠隔教育などのIT化が着々と進んでいます。今後、町づくりは、土木建築業界ではなく、IT業界が支える時代になるかもしれません。世界ではこうした競争が始まっています。日本でも、自動走行や遠隔教育の実証実験などを部分的に進めている自治体はありますか、町

全体を複数のサービスでカバーしているところはありません。

ではなぜ、スーパーシティ／スマートシティが必要なのでしょうか？ 例えば、交通の便の悪い地域では、タクシーを利用する余裕のない高齢者は通院が難しく、タクシー会社も需要が増えたところで車両不足で対応できません。しかし、市民の車を活用してボランティアタクシー事業を行い、支払いをボランティアポイントにすれば解決します。また、遠隔診療を受けられるようになれば、通院の必要もなくなります。

スーパーシティ／スマートシティは、さまざまな問題を解決する仕組みであり、地方でも都会でも取り入れができると考えています。住民合意の形成が難しいかもしれませんのが、何のためにスーパーシティ／スマートシティ化するのかを明確にすれば、住民のみなさんの理解も得られるでしょう。つまり成功の鍵は、どこで取り組むかではなく、それぞれの地域が抱える課題をみんなで引っ張り出して、本気で解決しようとすることだと考えています。

本フォーラムには、75の自治体の方々が来られました。この日をきっかけに、各自治体で、スーパーシティ／スマートシティを目指してほしいと思います。

G20大阪サミット シエルパ会合 6月25日(火)~27日(木)

サミットに先駆け、37名の 参加国・国際機関代表者が集まり 大阪府立国際会議場にて開催

G20大阪サミットに先駆け、大阪府立国際会議場では、6月25日(火)~27日(木)、G20大阪サミットの関連会議である「第3回シェルパ会合」が行われ、各国の代表が集まりました。

「シェルパ」とは、登山において登山者を山頂(サミット)に導く案内者に由来しています。この日、当会議場に集まったのは、首脳の補佐役であるG20シェルパ37名。当日は、各国のシェルパ同士がG20大阪サミットにおける首脳宣言の取りまとめに向けて、議論を交わしました。

G20大阪サミット開催 ～国内開催の首脳会議として、過去最大規模～

シェルパ会合終了後、入念な準備のもと、6月28日(金)・29日(土)にインテックス大阪にて行われたG20大阪サミットには、G20メンバー国に加えて、8カ国の招待国、9つの国際機関の代表が参加。国内で開催した首脳会議では史上最大規模であり、日本は初めて議長国を務めました。

本サミットでは、各国のリーダーが互いの共通点を見出し、主要な世界経済の課題に団結して取り組んでいく姿勢が打ち出され、日本は議長国として、自由貿易の推進やイノベーションを通じた世界の経済成長のけん引と格差への対処、環境・地球規模課題への貢献等、多くの分野でG20としての力強い意志を「大阪首脳宣言」を通じて世界に発信し、リーダーシップを発揮しました。



画像出典:「G20大阪サミット」(外務省) (<https://g20.org/jp/photos/others.html>) を編集

CSR Report

グランキューブ大阪が関わった文化プロジェクトや社会貢献活動についての報告です。

8/4[日]

「グランキューブ大阪探検ツアー」と 「体験!中之島の精霊流し」同時開催



「グランキューブ大阪探検ツアー」

去る8月4日(日)、今年で2回目となる夏休み子ども向け見学会を実施。13時の部、16時の部合わせて10名の小学生と11名の保護者の方が参加しました。まず「グランキューブ大阪クイズ」を実施後、館内見学へ。メインホールでは、可動式舞台と可動式客席のメンテナンスの様子を見学(とても貴重です)。また、大人気の屋上ヘリポートや賓客をお迎えする際に使用されるVIPルームの見学も。

子どもたちからは「ヘリポートが楽しかった!」や「クイズが面白かった!」などの声が出るなど、今年の見学会も好評でした。

「体験!中之島の精霊流し」

同日、声フェス地鎮が主催、弊社初参加共催による「体験!中之島の精霊流し」が開催されました。「あかりのアートをつくろう」では、1Fプラザステージで「あかりのアート」を作成。作品は8月14日(水)まで2Fコーナーに展示されました。

また『かつて大阪の水辺に妖怪がいた?』と題した講演会では、民俗学研究者で文学博士でもある田野登氏をお迎えし、中之島やその周辺に現れるという水辺の妖怪についてお話をいただきました。子どもはもちろん、古地図が大好きな大人もあつと驚く内容でした。



8月中旬

「インターンシップ」受け入れ

今回初の試みとして、大阪国際大学の学生2名と近畿大学の学生2名の計4名が参加し、約1週間の日程でインターンシップを実施しました。インターン参加の皆さんには、まず大阪府立国際会議場の役割や課題を共有し、スローガン案を共に考えていただきました。また「地域との共生を大切にしたい」という思いから、館内に留まらず、国立国際美術館、アートエリアB1、パタゴニアサーフ大阪/アウトレット、一本松海運株式会社の皆さんにもご協力いただいて座談会等を実施。学生の皆さんのが「中之島においてどのような活動がされているのか」を学ぶ機会をいただきました。

座談会では学生ならではの斬新な意見が飛び出



すなど、弊社に
とっても新たな
発見をさせてい
ただける機会と
なりました。

EVENT INFORMATION

グランキューブ大阪で今後開催予定のイベントをご紹介します。

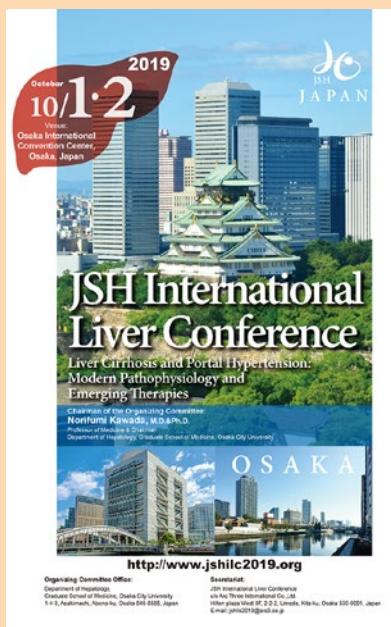
COMING-UP [開催予定]

2019. 10/1-2

JSH International Liver Conference 2019

肝硬変と門脈圧亢進症に関する国際カンファレンス

抗ウイルス薬の開発は、ウイルス性肝疾患診療に福音をもたらしました。しかし肝炎ウイルスが消失しても肝疾患が完治する訳ではありません。今回、残された肝疾患の課題である肝線維化と門脈圧亢進症さらに肝発癌リスクについて世界的なオピニオン・リーダー21名を招聘し、我が国の第一人者と討議する国際カンファレンスを企画しました。肝線維化の病態解析と新たな手技・薬剤による肝硬変診療の実態さらには新規治療の開発へ向けた最新の情報を知り得る貴重な機会になるものと考えます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。



[大阪市立大学大学院 医学研究科
JSH International Liver Conference 2019事務局長 田守 昭博]

2019. 10/13-15

3rd International Conference on Situating Strategy Use (SSU3)

外国語学習方略に関する研究・実践の第3回国際大会



本大会は、隔年で開催されている外国語学習方略(外国語の学習方法)・学習者要因(外国語学習における個人差)に関する研究・実践の国際大会で、その第3回目となります。アジアでの開催は初めてであり、アジアの諸国はもちろんのこと、世界17カ国以上から150名を超える研究者・実践家の参加を想定しています。またプログラムでは、4名の世界的研究者の基調講演、3件の招聘シンポジアム、2件の招聘ワークショップに加え、90件あまりの研究発表が予定されています。参加費、プログラムなどの詳細は大会ホームページをご確認ください。<http://ssu2019.org/>

[SSU3国際大会準備委員会 関西大学外国語学部・教授 竹内 理]

2019. 10/13

第12回宝酒造杯囲碁クラス別チャンピオン戦

囲碁とお酒が楽しめる、宝酒造杯。参加者募集!



今年で第12回を迎える宝酒造杯囲碁クラス別チャンピオン戦大阪大会を10月13日(日)に開催します。

初心者から高段者までクラス別に対局でき、また抽選でプロ棋士の指導碁や審判長のサイン色紙が当たるほか、お酒の各種試飲、詰碁クイズなどお楽しみイベントを同時開催します。宝酒造商品の参加賞も大人気です。20才以上の成年の方ならどなたでも参加できます。地区大会の各クラス1名ずつの優勝者は来年1月の全国大会にご招待! 詳しくは日本棋院ホームページをご覧下さい。

[公益財団法人
日本棋院関西総本部 安藤 浩輝]



2019. 11/11

農業参入フェア2019

「企業の農業参入の一層の促進のためのセミナー」



企業の農業参入が進んでいます。

農業従事者の高齢化、耕作放棄地など様々な課題を抱えてきた日本の農業ですが、一般企業との益々の連携は、魅力のあるビジネスとして大きく注目されています。

このような中、農林水産省と日経ビジネスは昨年に引き続き、『農業参入フェア2019』を11月に開催いたします。

著名経済評論家や農業専門家、成功企業経営者の講演会からなるセミナーと、都道府県農地中間管理機構や市町村、提携企業とのマッチングの場となる「展示ブース・相談コーナー」からなる本フェアは農業参入・経営の情報・ノウハウを得る格好の機会になります。是非、ご参加をお待ちしております。

「農業参入フェア2019」 主催:農林水産省 共催:日経ビジネス

[事前登録制・受講料無料] ■12:30開場~18:00まで

■受講者数/300名(先着順・定員になり次第締め切らせていただきます)



イベントカレンダー

<https://www.gco.co.jp/event/>



タッグを組んで、大阪MICEを盛り上げる —株式会社ロイヤルホテル—

中之島の著名企業・施設を大阪国際会議場社員が訪問し、
その歴史や活動を紹介する

「NAKANOSHIMA BUSINESS FRONTLINE」。

第3回は、当館に隣接するリーガロイヤルホテル

(以下:ロイヤルホテル)を運営する

株式会社ロイヤルホテル大阪営業部の松田明人課長に、
営業部誘致課長の日下典之がお話を伺いました。

大阪で誕生して80余年

日下 本日は、お時間をいただきありがとうございます。大阪を代表する格式あるロイヤルホテルさんとは、普段からともに仕事をさせていただき、非常にうれしく思っています。ロイヤルホテルさんの歴史は長く、もうすぐ85周年を迎えますが、その中でどのような役割を果たされてこられたのでしょうか？



松田 当ホテルは1935年、大阪政財界の「賓客のための近代的ホテルを大阪に」との声から創業し、1965年に現在の場所に移りました。80余年の歴史の中でたくさんの方々をお迎えしてきました。私どものセクションでは、学術集会(以下、学会)や同窓会、教授就任・退任祝賀会のお手伝いをさせていただいています。そしてご利用いただいた方のご子息やご令嬢の結婚式のご相談をお受けすることもあります。館内には、20店のレストラン・バーや西日本最大級のホテル屋内プールのほか、地下1階には約60店のショッピングギャラリーもあります。パンやケーキ、お総菜などを販売する「グルメブティック メリッサ」は、“ホテイチ”ブームの先駆けとして、ご宿泊のお客様以外からも注目されました。

日下 さまざまな楽しみを提供されているので、ご宿泊のお客様も快適に過ごせるんですね。G20大阪サミット期間中は、メンバー国

や招待国の首脳、国際機関などのトップが宿泊されたとお聞きしています。

松田 はい。中之島地区では1995年、大阪で開催されたAPEC1995以上の警備体制でした。当ホテルもこれまでの経験を生かし万全の体制でお迎えしました。

共存・共栄・協働で 大阪MICEの発展に貢献

日下 国内外のMICE産業は成長著しいですが、MICE誘致に取り組む際の強みは何だとお考えですか？

松田 やりり、大阪国際会議場さんが隣接していることが強みですね。大規模な学会が開催される際には、当ホテルのバンケットルームをセミナー会場として使用することがございます。会議後の懇親会や招待者・参加

者のご宿泊も受け入れさせていただいており、200~300室を数年前から確保いたします。大型のホテルと会議施設が隣接しているため誘致の際は主催者への強いアピール材料となります。

日下 ロイヤルホテルさんのお力添えは、大規模な学会を受け入れる際、弊社の大きなセールスポイントになっています。これまで多くの会議と一緒に受け入れてきましたが、昨年3月に行われた学会には、国内外からの参加者が約1万8千人と、中之島開催において歴史に残るであろう参加者数でとても印象的でした。



株式会社大阪国際会議場
営業部 誘致課長 日下典之

* ホテイチ: ホテル1階にある食料品のテイクアウトショップ。

ヤルホテルさんとは、今後も共存、共栄、協働で、大阪MICEを盛り上げていきたいと思います。

松田 今年の7月29日には、大阪国際会議場さんや当ホテルをはじめ、18の企業・団体で構成する「大阪MICEアカデミー」の第1回勉強会が開催されましたよね。大阪のMICEも盛り上がってきたな、という実感はあります。

世界に注目されるエリアで 幅広いMICE展開を

日下 今後、大阪・中之島の存在価値を上げるために、何をしていくべきとお考えですか？

松田 大阪のMICE環境は今後、プラスに転じていくと考えています。今年は「G20大阪サミット」や「ラグビーワールドカップ2019日本大会」が開催され、さらに今後は、「ワールドマスターズゲームズ2021関西」、2025年の「大阪・関西万博」も控えています。また、2021年度には当ホテル隣の中之島4丁目地区に、大阪中之島美術館が開館予定、その後再生医療国際拠点としても整備される予定です。今後、世界から注目されるエリアなので、



株式会社ロイヤルホテル リーガロイヤルホテル 大阪営業部
松田明人課長

幅広いMICE事業と一緒に盛り上げていければ、と考えています。

8月1日からは、当ホテルが創業以来所有する絵画や意匠を凝らした空間を、画像と音声(日・英)で紹介するウェブサイト「たからさがし」を開設しました。これからも、当ホテルや中之島の文化、歴史、食などをどんどん発信し、国内外の方々にもっと利用してもらえるよう工夫していきますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

日下 こちらこそ、よろしくお願ひいたします。本日はありがとうございました。



リーガロイヤルホテルの「たからもの」を紹介するサイトはごちらから

全館を把握する中央監視盤、食物
竣工する。全室に浴室を完備、
新大阪ホテルは昭和10年に
建築事務所が設計を担当、水都
の中心である中之島にふさわしい
武田五一が、のちに長谷部竹腰
事務所が置かれた。当初は建築家
デアは、その後、政府の国際観光
局が「国際観光ホテル」を全国的に
推進するうえで、おおいに参考
にされた。

大阪市役所に臨時ホテル建設
が実現した。この建物は、建築家
デアの設計によるもので、外観は
「JAPAN'S LARGEST and
FINEST」「EASTERN CHARM
GROWS WITH WESTERN
COMFORT!」、日本最大最良
のホテルであり、西洋の快適性を
兼ね備えつつ東洋の魅力が輝く
と、誇らしげにアピールしていた。



戦前の中之島の観光絵葉書。手前から、朝日ビルディング、大阪朝日会館、新大阪ホテル、大阪ビルヂング(ダイビル本館)。ビル街ができる様子を「まるで西洋」と感嘆している。
[図版提供:橋爪紳也コレクション]

中之島 トリア

日本初!
公設民営
「国際観光ホテル」
NAKANOSHIMA TRIVIA

第3回



橋爪紳也 Shinya Hashizume

大阪府立大学研究推進機構特別教授
大阪府立大学観光産業戦略研究所長

PLAYBACK GRANDCUBE

2000年の開業から来年で20周年を迎える大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)。4回に渡って過去20年間を振り返る本連載の第3回目は、開業から6年を経過した2006年から2013年間の8年間の歩み。この間、グランキューブ大阪は日本を代表する国際会議場の一つとして大きく成長。各国首脳会議クラスの最重要会議の開催、また年間平均来場者数100万人突破など、新たな時代のコンファレンス&イベント拠点としての確たる存在感を確立しました。



2008年6月(平成20年) 「サミットG8 財務大臣会合」開催

2008年(平成20年)7月に第34回首脳国首脳会議(サミットG8首脳会議)が、北海道・洞爺湖畔で開催されるに先立ち、6月13日~14日の2日間にわたり、大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)において、1975年(昭和50年)のサミット初開催時から続く重要会合である「サミットG8財務大臣会合」が開催されました。本会合には、G8各国の財務大臣に加え、欧州委員会代表、EU議長国の財務大臣、IMF専務理事、世界銀行総裁等が参加しました。会期中には、G8メンバーに加えオーストラリア、タイ、ブラジル、中国、韓国、南アフリカの代表、アジア開発銀行総裁、金融安定化フォーラム議長、国際エネルギー機関事務局長を交えたアウトチーチ会合も開催。G8メンバー会議においては、特に世界経済の現状と見通しについて掘り下げる議論が行われた後、共同声明が採択されました。本会合は、グランキューブ大阪にとって初の世界首脳会議クラスのコンファレンス開催会場となる重要案件であり、ここでの実績、またセキュリティ強化並びに最重要レベルの国際会議開催により獲得した会場管理の経験と知見が、本年のG20シェルパ会合開催会場の決定また運営に大いに役立つこととなりました。



出展/写真提供: 財務省WEBサイト

EPISODE 01

宇宙飛行士・山崎直子さんを迎えての自主企画イベントを開催



2013年3月23日、グランキューブ大阪12階特別会議場&ホワイエを会場に、日本人二人目の女性宇宙飛行士としてスペースシャトル「ディスカバリー」に搭乗、様々な宇宙でのミッションを果たして帰還した山崎直子さんを講師にお迎えしての講演会、外国語にふれる体験型コーナーからなる小学生対象自主企画イベントを開催。全国から359名の小学生が参加しました。



会場には、目を輝かせて山崎さんのお話を聞き入る子ども達の真剣なまなざしあつくさんの笑顔があふれ、グランキューブ大阪のスタッフにとってもイベントの持つ魅力と力を感じた一日になりました。

EPISODE 02

“時空を超えた”「松任谷由実ライブコンサートツアー」の会場に

グランキューブ大阪は、開業初年から多くのトップアーティストや時代を彩る人気ミュージシャンたちのライブツアー会場として選ばれてきましたが、2009年初夏～盛夏はとりわけ熱いコンサートツアーの日々となりました。GW期間中の4日間と8月17日～23日中の5日間、「CONCERT TOUR TRANSIT 2009 YUMI MATSUOYA」と題し、松任谷由実さんのライブツアー9公演を開催。連日超満員の会場では、“時空を超えた”華麗なるライヴショーが繰り広げられ、長年のファンから若い人々まで、生で見る松任谷由実のライブコンサートの魅力を心行くまで味わいました。

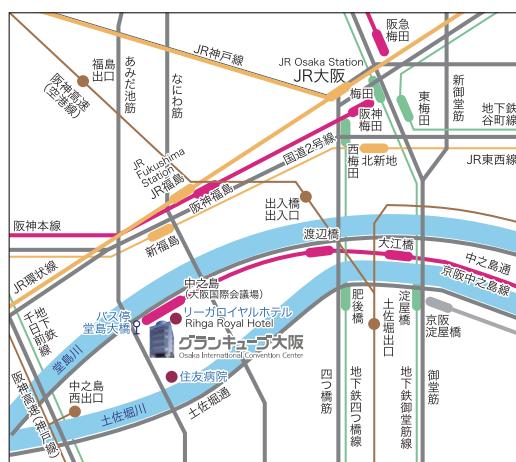
2006-2013年 年間平均来館者100万人突破

【主な催事】

2006	5/15-20	第7回機能性π電子国際会議
	5/22-24	SACCSIS 2006
2007	2/24-26	日本フラワーデザイン大賞
	10/25-26	アジア主要都市サミット
2008	6/13-14	G8財務大臣会合
	8/23-30	第21回国際結晶学連合会議
2009	6/21-25	第19回 国際海洋地工学会議
	9/15-17	第3回日露米医療シンポジウム
2010	8/3-7	第14回ハンドベル世界大会
	11/2-7	JCI世界会議大阪大会
2011	9/21-23	第8回国際微量癌シンポジウム
	11/14-17	国際ガスタービン会議大阪大会
2012	4/1	ミス・ユニバース・ジャパン最終選考会
	8/30-9/2	第4回アジア太平洋生殖医学会 第30回日本受精着床学会総会・ 学術講演会
2013	3/23	未来のおとなたち。 ～夢を宇宙へ広げよう～ 講師：山崎直子氏（宇宙飛行士）

【主なコンサート】

2006	6/4	元 ちとせ LIVE 2006
	10/12-14	シャ乱Q ライブツアーアフターワーク
	11/11-12	モーニング娘。コンサートツアーアフターワーク
2007	11/5-6	YAMAZAKI MASAYOSHI COVER HALL TOUR 2007
2008	9/23	CYNDI LAUPER JAPAN TOUR 2008
2009	4/29-30,5/2-3,8/17・19-20・22-23	全9公演 松任谷由実 / CONCERT TOUR TRANSIT 2009 YUMI MATSUOYA
	8/26-27	アンジェラ・アキ Concert Tour 2009 ANSWER
2010	10/9	森山直太朗 コンサートツアーアフターワーク
2011	3/3-4	井上陽水 Tour 2011 Powder
	11/1	東方神起 コンサート
2012	11/3	一青窈 10th Anniversary Tour 2012
2013	1/27	西野カナ Kanayan Tour 2013



(電車)

- 京阪中之島線「中之島(大阪国際会議場)駅」(2番出口)すぐ
- JR大阪環状線「福島駅」から徒歩約10分
- JR東西線「新福島駅」(2・3番出口)から徒歩約10分
- 阪神本線「福島駅」(3番出口)から徒歩約10分
- 大阪メトロ「阿波座駅」(中央線1号出口・千日前線9号出口)から徒歩約15分

(バス)

- JR「大阪駅」駅前バスター・ミナルから、大阪シティバス(53系統 船津橋行)
または(55系統 鶴町四丁目行)で約15分、「堂島大橋」バス停下車すぐ
- シャトルバスが、「リーガロイヤルホテル」とJR「大阪駅」桜橋口の間で運行しており、ご利用いただけます(定員28名)
- 中之島ループバス「ふらら」で地下鉄・京阪「淀屋橋駅」(4番出口・住友ビル前)から約15分

株式会社 大阪国際会議場

OSAKA INTERNATIONAL CONVENTION CENTER CORP.

〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3番51号
Tel.06(4803)5555(代表) Fax.06(4803)5620



GRANDCUBE PRESSは、
地球上でやさしい広報誌。
この印刷物は環境に配慮した
植物油インクを使用しています。